

【EMD.GR.JP 掲載のニュース】

(2005年5月13日～

2005年6月15日分)

RWC、有機ELディスプレイ搭載デジタルオーディオプレーヤーを発表

クアール・ダブリュー・シー(RWC)は、小型筐体に有機ELディスプレイを搭載したデジタルオーディオプレーヤー「Arex zero」(アレックス ゼロ)を2005年6月25日に発売すると発表した。

メモリ容量は1GBと512MBの2モデル。

対応する音声圧縮形式は WMA/MP3/WAV。WMA の DRM もサポートする。対応ビットレートは MP3 が 8～320kbps、WMA が 48～192kbps。

液晶部分には2色カラーの128×64ドット有機ELディスプレイを搭載。日本語/英語/中国語の表示をサポートし、ID3タグの日本語表示や、歌詞データの表示機能も備えている。

また、マイクも内蔵しており、MP3/WAV形式でのボイスレコーディングも可能。FMチューナーも内蔵している。

5バンドプリセットイコライザを備えるほか、レジャー機能も備える。また、スクリーンセーバーもインストールされている。

PCとのインターフェースはUSB 2.0。MP3/WAV形式でのダイレクトエンコードも行なえる。対応OSはWindows Me/2000/XP、Mac OS 9.1～9.2.2/10.1以降。

電源は単4電池1本を使用し、連続再生時間は約10時間。外形寸法は58×18×28mm(幅×奥行き×高さ)。電池を除いた重量は約32g。

カラーリングは各容量にブルー、シルバー、レッドの3色。価格はオープン。

(6/15)

東北大学、容量10GBの1インチHDDを試作

東北大学電気通信研究所は、文部科学省より委託の産学連携プロジェクトにおいて、10GB(ギガバイト)相当の容量を有する1インチサイズの超小型大容量垂直磁気ハードディスクドライブ(HDD)の試作に成功したと発表した。

このHDDは、超小型ドライブとしては世界で初めて垂直磁気記録方式(1977年に東北大学電気通信研究所で岩崎俊一教授が世界に提唱)を採用。138Gbits/inch²(ギガビット毎平方インチ)という世界最高の記録密度を達成している。

同研究所は、2002年から5年間の計画で文部科学省から委託をうけ、中村慶久教授をプロジェクトリーダーとして、日立GSTなど6社と垂直磁気記録方式に関する共同研究・開発を続けている。

今回のHDDはその成果の一部としており、将来的には1平方インチあたり1Tbitの記録密度の実現をめざしている。

(6/15)

ケイ・オプティ、1Gbps インターネット接続サービス開始

ケイ・オプティコムは、最大1Gbpsの通信速度をユーザー宅内まで提供する戸建て向け光ファイバ接続サービス「eo光ネット(ホームタイプ)1ギガコース」を2005年7月1日に開始すると発表した。

同社では、2005年4月1日から6月15日まで兵庫県神戸市須磨区の一部エリアを対象に最大1Gbpsのインターネット接続試験サービスを実施。今回、試験サービスにおいて技術検証のめどがついたことを受けて、正式に提供開始が決定されたものの。

新サービスでは、試験時と同様にIEEE 802.3ah 準拠の「GE-PON(Gigabit Ethernet-Passive Optical Network)」技術を採用、1本の光ファイバ回線を最大32分岐してサービスが提供される。

eo光ネット(ホームタイプ)1ギガコースは、回線終端装置までを最大1Gbps、回線終端装置からパソコンまでを最大1Gbpsの通信速度が提供されるコース。

また、「eo光ネット(ホームタイプ)100Mプレミアムコース」は、1ギガコースと同様に1Gbpsの光ファイバ回線を使用し、回線終端装置からパソコンまでを最大100Mbpsの通信速度で提供されるコース。

月額料金は、通信料やプロバイダ利用料、回線終端装置利用料を含めて、1ギガコースが月額8,800円、100Mプレミアムコースが月額5,500円。

初期費用は、契約事務手数料3,150円、標準

工事費28,350円となるが、同社では2005年7月から10月末までの期間、標準工事費が無料になるキャンペーンを実施する予定としている。

なお、最大100Mbpsの光ファイバ回線を利用した「eoホームファイバー」も、「eo光ネット(ホームタイプ)100Mコース」と名称変更した上で、引き続き提供される。

(6/10)

アイリバー、フック付きプレーヤー「T10」を発表

エイリバー・ジャパンは、タウンやアウトドアシーンでも活躍するクリップ付きのフラッシュメモリ型ポータブルオーディオプレーヤーの新シリーズ「T10」を2005年7月上旬に発売すると発表した。

T10シリーズの特徴は、プレーヤー本体にフックが付いていること。スポンのベルトクリップやバッグなどに簡単に取り付けられる。メモリ容量は1GBと512MB、256MBの3モデル。

対応する音声圧縮形式はWMA/MP3/OGG/ASF。対応ビットレートはMP3が8～320kbps。

液晶部分にはカラー表示に対応した1.01インチのCSTN液晶ディスプレイを採用、ID3タグ表示に対応。65,000色表示に対応しており、BMPファイルも表示可能。スクリーンセーバー機能も備えている。

音質面ではSRS WOWを搭載。10種類のプリセットイコライザが利用できるほか、ユーザーのカスタム設定も5種類保存できる。S/N比は90dB(MP3再生時)。

さらに、FMチューナーとマイクを内蔵。ラジオ番組の録音とボイスレコーディングが行なえるほか、ラジオ番組のタイマー録音もサポート。電源オフ状態でも自動的に機動し、録音をスタートする。

PCとのインターフェースはUSB 2.0。ストレージクラスに対応し、専用ソフトを使わずに楽曲転送が可能。対応OSはWindows 2000/XP。

電源は単3電池1本で、最大連続再生時間は約53時間。外形寸法は85.8×40.8×29.4mm(幅×奥行き×高さ)。電池を除いた重量は約49g。

カラーリングは、256MBがライムグリーン、512MBが

チェリーレッド、1GB がオレンジイエロー。価格はオープン。

(6/10)

USEN、光ファイバサービスの取り付け総数が5月末で30万件突破

USENは、2005年5月31日現在でのブロードバンド事業の進捗状況を発表した。

これによると、工事日が確定している契約者数が前月比22,186増の467,113件、回線が開通している取付数が前月比14,115増の310,373件となった。

なお、取付数の内訳では、5月の完成数が17,310件、解約数が3,195件となっている。

また、形態別の内訳では、戸建が前月比32減の8,329件、集合住宅が前月比13,523増の281,861件、法人用途のオフィス・商業ビルが前月比624増の20,183件となっている。

同様に、集合住宅における1棟あたりの平均加入戸数は6.13(集合住宅8.30、法人用途のオフィス・商業ビル1.32)、集合住宅取付棟数は前月比1,204増の49,298(集合住宅33,954、法人用途のオフィス・商業ビル15,344)となっている。

(6/9)

Seagate、デジタル家電向けHDDの新製品を発表

Seagateは、500GBのレコーダ機器向けHDD「DB35」シリーズや、携帯音楽プレーヤーなどに向けた8GB 1インチHDD「ST1」シリーズ、カーナビ向けHDD「EE25」シリーズ、PC向け製品などのラインナップを含む10製品を発表した。

DB35シリーズは、デジタルビデオレコーダやホームサーバー向けの3.5インチHDD。80~500GB容量が用意され、500GBモデルでハイビジョンの映像を最大85時間、SD放送を最大500時間記録可能。同時に10タイトルのストリーム録画も行なえる。

ドライブのパラメータをビデオ/オーディオストリームの録画に最適化する「DynaPlay」を搭載。消費電力や発熱も効率よく制御するという。また、著作権保護機能も備える。回転速度は7,200rpm。

ST1シリーズは、ポータブルメディアプレーヤー向けの1インチHDD。今回は4/8GBモデルをリリース。8GB、6GB、5GB、4GB、3GB、および2.5GBのラインナップを揃えた。

RunOnテクノロジーにより、ジョギングなど動きの激しい環境でもドライブが動きを感じて補正し、問題なく再生を続けるため、安定した音楽再生が可能としている。

EE25シリーズは、-30°Cから85°Cの環境でも動作し、高湿度や高地にも耐える車載機器向け2.5インチHDD。容量は20/30/40GBの3モデルを用意する。

ドライブの動作時の耐震性が2.2Gまで増強され、走行中にナビゲーション、エンタテインメント、およびデータサービスをストリーミングする際の、自動車の走行による持続的な振動にも耐えるとしている。

LD25シリーズは、ゲーム機、ホームエンタテインメント機器および省スペースPC向けの2.5インチHDD。低消費電力仕様で、静音性に優れ、信頼性の高いFDBモーターSoftSonicを特徴としている。マイクロソフト「Xbox 360」にも採用された。容量は20/40GB。

(6/9)

アイ・オー、DRMに対応した「AVeL LinkPlayer」の新モデルを発表

アイ・オー・データ機器は、ネットワーク対応DVDプレーヤー「AVeL LinkPlayer」シリーズに、DRMに対応しIEEE 802.11g無線LANに準拠したモデル「AVLP2/DVDG-2」と有線LANモデル「AVLP2/DVDLJ-2」を2005年6月下旬に発売すると発表した。

AVeL LinkPlayerシリーズは、パソコンに保存した画像・音楽・動画ファイルを、ネットワークを介してテレビなどで再生できる製品。

追加機能では、新たに著作権保護技術「Windows Media DRM 10」に対応し、パソコンに保存されたDRM対応コンテンツが再生できる。

また、DLNA(Digital Living Network Alliance)への対応を予定しており、ネットワークに対応したデジタル家電などの連携が可能になる。なお、連携可能な機器については後日公開予定。

このほか、音声コーデックではWindows Media Audio 9 Professional(WMA9 Pro)に対応し、WMA9 Proを使用したWMV HDコンテンツの再生が可能のほか、DivXファイル再生時の縦横比のくずれを調整する「AR2機能」を新たに搭載する。

対応フォーマットは、動画がMPEG-1/MPEG-2/WMV9/DivX/XviD、音声はWMA/MP3/AAC/PCM/OggVobis、画像がBMP/JPEG/GIF/PNG。DVDドライブの対応メディアはDVD-ROM/±R/±RW、CD-ROM/R/RW、再生フォーマットはDVD-Video/Video CD/CD-DA。

インターフェースは、10BASE-T/100BASE-TX×1ポートのほか、映像出力端子は、D4×1、S2映像×1、コンポジット×1を、音声出力端子は光デジタル×1、同軸デジタル×1、アナログ×2を装備。また、AVLP2/DVDG-2はDVI-I端子も装備する。

本体サイズは430×291×55mm(幅×奥行×高)、重量は約3.5kg。対応OSは、Windows XP/Me/2000/98SEおよびMacOS X 10.3以降。

標準価格は、AVLP2/DVDG-2が26,400円、AVLP2/DVDLJ-2が23,500円。

(6/8)

有料音楽配信サービスがP2P並みに普及しているとの調査結果

米国の調査会社NPD Groupは、「iTunes Music Store」など有料音楽配信サービスが無料P2Pファイル交換ソフト並みに普及しているとの調査レポートを発表した。

レポートは同社が米国で2005年3月に40,000の家庭内Windowsユーザーを対象に実施した音楽配信サービスの利用状況の調査に基づいている。

それによると、利用者数では「WinMX」が210万世帯で最も多かった。2位はiTunesとP2Pファイル交換ソフト「LimeWire」の170万世帯で肩を並べた。有料サービスとしては、「Napster」が7位、「Real Networks」が9位にランクインしている。

また、米国のインターネット利用可能世帯のうち、4%で有料音楽ダウンロードストアが利用されていた。これらの利用者の多くは30代以上(平均年齢33歳、平均世帯年収83,000ドル)で、若年層では他の年齢層と比較してP2Pファイル交換ソフトを利

用する比率が高かった。

一方、年齢層が高くなるほど P2P ソフトを使用するユーザーは少なくなっており、NPD では「レコード業界が取り組んでいる著作権侵害訴訟の影響が大きい」と分析している。

(6/8)

ビクター、耳掛けヘッドホン型デジタルオーディオプレーヤーを発表

日本ビクターは、小型・軽量で高音質なアームレスヘッドホンにメモリープレーヤーを内蔵し、耳に装着するだけで軽快に音楽を楽しめるデジタルオーディオプレーヤー「XA-AL55」を2005年6月下旬より発売すると発表した。

XA-AL55 は、アームレスの耳掛け式ヘッドホンに、256MB のフラッシュメモリープレーヤーの機能を内蔵したモデル。

対応する音声圧縮形式は MP3/WMA で、WMA の DRM もサポートする。ビットレートは MP3/WMA とともに 32~192kbps に対応する。また、音質面では 4 モードのプリセットイコライザと、SRS WOW も内蔵している。

操作ボタンはハウジング部に搭載。液晶ディスプレイなどは備えていないが、ボタンの操作に対するリアクションを音声で知らせる「音声ガイド」機能が利用できる。

ヘッドホンユニットは 30mm 径。ドライバにはネオジウムマグネットを採用。また、18bit $\Sigma \Delta$ D/A コンバータを内蔵しており、ディテールの表現力が高い、高音質再生が行なえるとされている。アンプ部の最大出力は 5mW \times 2ch (32 Ω)。

PC とのインターフェースは USB 1.1。ストレージクラスに対応しており、専用ソフトなどを使わずに音楽ファイルや、その他のファイルを転送できる。ただし、WMA DRM ファイルの転送には Windows Media Player を利用する。対応 OS は Windows 98 SE/Me/2000/XP。

電源は単 4 形アルカリ乾電池 1 本を採用。連続再生時間は最大約 19 時間 (MP3 128kbps)。USB ケーブルやケーブルクリップなどを同梱する。

外形寸法は 45 \times 26 \times 52mm (幅 \times 奥行き \times 高さ)。重量は電池込みで約 57g。

カラーバリエーションはブラック(-B)、ホワイト(-W)、シルバー(-S)、メタリックレッド(-R) の 4 色。価格はオープン。

(6/8)

ビクター、スクエアフォルムのデジタルオーディオプレーヤーを発表

日本ビクターは、「ダイレクトレコーディング」機能を搭載し、片手で操作しやすいスタイリッシュなスクエアフォルムを採用したメモリータイプのデジタルオーディオプレーヤー「XA-MP101」と「XA-MP51」の 2 モデルを 2005 年 7 月中旬より発売すると発表した。

カラーリングは 1GB モデルの XA-MP101 がメタリックシルバー(-S)とメタリックブルー(-A)の 2 色。512MB モデルの XA-MP51 が、メタリックシルバー(-S)、メタリックブラック(-B)、メタリックレッド(-R)、パールホワイト(-W)の 4 色を用意する。

対応する音声圧縮形式は MP3/WMA で、WMA の DRM もサポートする。

液晶ディスプレイは日本語と英語でメニュー表示が行なえるほか、27 言語で ID3 タグ情報が表示可能。日本語の漢字表示もサポートしている。

筐体は丸みを帯びたスクエアフォルムを採用。メインキーを中央に、ボリュームキーを上部に配置し、片手でも快適に操作できるレイアウトを追求したとしている。

音質面では、18bit $\Sigma \Delta$ 方式の D/A コンバータを内蔵。ドライバにネオジウムマグネットを搭載したヘッドフォンを付属する。

また、MP3 エンコード機能も搭載。アナログ音声入力を使ってコンボなどと接続し、PC を使わずに MP3 フォーマットで録音できる。

さらに、FM チューナとモノラルマイクも内蔵。ADPCM 形式でラジオ番組の録音とボイスレコーディングが行なえる。

PC とのインターフェースは USB 2.0。ストレージクラスに対応しており、専用ソフトなどを使わずに音楽ファイルや、その他のファイルを転送できる。ただし、転送速度は USB 1.1 と同じ 12Mbps まで。WMA DRM ファイルの転送には Windows Media Player を利用する。対応 OS は Windows 98 SE/Me/2000/XP。

電源は単 4 形アルカリ乾電池 1 本を採用。連続再生時間は最大約 17 時間 (MP3 128kbps)。ヘッドフォンやネックストラップ、USB ケーブル、アナログ音声ケーブルなどを同梱する。

外形寸法は 50 \times 15 \times 50mm (幅 \times 奥行き \times 高さ)。重量は本体のみで約 30g、電池込みで約 42g となっている。価格はオープン。

(6/8)

インプレス、『インターネット白書 2005』を発刊

インプレスは、最新のインターネット利用動向を詳細にまとめた財団法人インターネット協会監修「インターネット白書 2005」を 2005 年 6 月 15 日に発売、2005 年 2 月時点の日本のブロードバンド人口は 3,224 万 4,000 人と発表した。

調査はアクセスメディアインターナショナルが 2005 年 2 月、全国の主要 26 都市とその近郊の一般世帯を対象に電話によって実施。調査では 4 万 850 世帯から有効回答を得た。

それによると、2005 年 2 月時点の日本のインターネット人口は 7,007 万 2,000 人で、2004 年 2 月の 6,559 万 4,000 人から 6.8% の増加。

レポートでは、ブロードバンド接続を ADSL/xDSL、CATV、FTTH (光ファイバ)、公衆無線 LAN アクセスポイント、専用線接続、第三世代携帯電話による接続方法と定義。

2005 年 2 月時点の日本のブロードバンド人口は 3,224 万 4,000 人で、初めて 3,000 万人を突破。2004 年 2 月の 2,246 万 7,000 人から約 1,000 万人増加。

また、利用機器が「携帯電話/PHS のみ」および利用場所が「勤務先/学校のみ」という利用者を除いたインターネット利用世帯のうち、ブロードバンド率は 65.4% となり、2004 年の 48.1% から大幅に増加した。

これらの数値より、日本全世帯におけるブロードバンド普及率としては 36.2% に達し、3 世帯のうち 1 世帯がブロードバンド世帯となったとしている。

(6/7)

ケンウッド、カラー液晶搭載の 20GB HDD プレーヤーを発表

ケンウッドは、世界初となるデジタルアンプの搭載による高音質再生を実現したデジタルハードディスクオーディオプレーヤー「HD20GA7」を 2005 年 6 月下旬より発売すると発表した。

HD20GA7 は、同社初の HDD 内蔵型オーディオプレーヤー。HDD 容量は 20GB。

対応する音声圧縮形式は MP3/WMA/WAV で、WMA の DRM もサポート。対応ビットレートは MP3 が 32~320kbps、WMA が 48~192kbps。

2.2 型、解像度 320×240 ドットのカラー TFT 液晶ディスプレイを備えており、楽曲のジャケットデータや ID3 タグの日本語表示などが行なえる。

インターフェースは液晶下部に「電源/メニューキー」と「マルチコントロールキー」、「ボリュームコントロールキー」を搭載。主な操作を行なうマルチコントロールキーは、上下左右に押し込めるボタン式となっており、上下のボタンのみ 2 段階の押し込みが可能。

アンプ部に HDD オーディオプレーヤーとしては世界で初めてデジタルアンプを搭載。デジタルアンプはアナログアンプに比べ、音楽データの処理をすべてデジタルで行うことから、データの劣化が極めて少なく、原音に忠実な再生を可能とする。

さらに、電源回路にセンシングアンプを搭載し、デジタルアンプの D/A 変換時にローパスフィルタ部の逆起電力から発生するノイズを解消している。

また、シャーシ部には軽量で剛性が高く、音質効果に優れた非磁性ステンレス合金を採用。ノイズを軽減するだけでなく、さらに音像の定位感が向上し、クリアで豊かな音楽再生を可能にしている。

プリセットイコライザは、NORMAL/LOUDNESS/BASS1/BASS2/ROCK/POPS/JAZZ/DANCE/VOICE/NOISE CUT の 10 種類に加え、ユーザー設定も保存可能。各周波数とレベルを個別に指定でき、細かなカスタマイズにも対応できるとしている。

PC とのインターフェースは USB 2.0。ストレージクラスもサポートしているが、楽曲の転送には専用転送ソフト「Kenwood Media Application」が必要。なお、転送は WMP 9/10 から行なえる。また、WMA DRM の転送は WMP からのみサポートしている。

また、2005 年 7 月下旬発売の MD/CD ミニコンボ「ES-A5MD」との連携機能も搭載。別売の専用デジタルケーブル「PNC-150」で接続すると、HD20GA7 の音声をミニコンボで再生できる。さらに、ミニコンボに付属するリモコンで、HD20GA7 の基本操作が行なえるようになる。

電源は内蔵のリチウムイオン充電電池を使用(取り外し不可)。連続再生時間は約 24 時間。USB 端子からの充電もサポートしており、充電所要時間は USB が約 5 時間、AC アダプタが約 2.5 時間。

外形寸法は 104×61×17mm(縦×横×厚さ)。バッテリーを含む重量は 140g。

カラーリングはホワイト(W)とブラック(B)の 2 色。価格はオープン。

(6/6)

電力線通信アライアンス「CEPCA」が発足

ソニーと松下電器産業、三菱電機の 3 社は、家庭に既設された電力線を通じて、映像コンテンツの家庭内配信や IP 電話などを可能にする高速電力線通信(PLC)の相互接続仕様確立を目指したアライアンス「CEPCA」(CE-Powerline Communication Alliance)を米国に設立したと発表した。

CE PLC(Power Line Communication)は、通常の家で利用している電源ラインに、電力だけでなく、デジタルデータも流し、電源ラインを通信回線として共用するという技術。

既設された電力線を利用できるため、新規導入のコストが低く、家庭内に接続ポイント(電源コンセント)が多く、接続が容易。

CEPCA は 2005 年 1 月 6 日に上記の 3 社で設立合意しており、今回新たに東芝、日立製作所、三洋電機、パイオニア、ヤマハの参画が決定し CE 機器メーカー計 8 社による協調体制が整い設立となったもの。

異なるメーカー間での PLC の共存を可能とする規格を策定し、コンシューマーエレクトロニクスメーカーや IT 企業の標準仕様として普及促進を図っていくとしている。

(6/3)

クリエイティブ、オンライン販売限定の 6GB HDD プレーヤーを発表

クリエイティブメディアは、オンラインショップ限定モデルとして、1 インチ HDD オーディオプレーヤー「Creative Zen Micro」の 6GB モデルを 2005 年 6 月中旬に発売すると発表した。

既発売の Zen Micro の HDD 容量は 5GB だが、オンラインショップ限定モデルとして 6GB の HDD を搭載したモデルとなる。カラーリングはホワイト(-WT)とブラック(-BK)の 2 色。

対応する音声圧縮形式は WMA/MP3/WAV。対応ビットレートは、WMA/MP3 とともに 8~320kbps。WMA の DRM もサポートする。SN 比は 98dB。

解像度 160×104 ドット、ブルー EL バックライトを搭載した液晶ディスプレイを採用。液晶下の操作部にはタッチパネルを採用する。

マイクと FM チューナーも内蔵しており、IMA ADPCM 形式でのラジオ録音、ボイスレコーディングにも対応している。

PC とのインターフェースは USB 2.0。オーディオデータの転送は付属ソフトの「Creative Media Source」や「Zen Micro メディアエクスプローラ」、もしくは「Windows Media Player 10」などから行なう。

また、PC 上の Outlook との連携機能も搭載。Creative Sync Manager を利用して、Outlook のカレンダーや ToDo、アドレスのデータを Zen Micro に転送できるほか、Outlook Express のアドレス帳データも読み込める。

電源は取り外し可能なリチウムポリマーバッテリーで、連続再生時間は約 12 時間。USB 経由での充電に対応し、充電所要時間は約 5 時間。別売の AC アダプタでは約 3 時間で充電できる。

外形寸法は約 51×19×84mm(幅×奥行き×高さ)、重量は約 110g(バッテリー含む)。通販価格は 27,800 円。

(6/3)

野村総研、家庭内におけるデジタルコンテンツ流通実態調査を発表

野村総合研究所は、インターネットユーザーを対象に実施した「家庭内におけるデジタルコンテンツ流

通実態調査」の結果を発表した。

調査は、インターネットユーザー1,000人を対象に、インターネット上で4月27日と28日に実施したものの。回答者1,000人のうち、ハードディスクレコーダーの保有者と非保有者が500人ずつ、iPodなどのHDD搭載携帯プレーヤーの保有者と非保有者が500人ずつになるよう設定されている。

これによると、音楽コンテンツについてCDやMDなど商用音楽ソフトの楽曲をPC内にMP3ファイルなどで蓄積している人の割合が30.0%を占めた。蓄積曲数は1人あたり311.4曲(蓄積していない人も含む全体の平均)で、1曲4MBとして換算すると容量は1.24GBに相当する。

さらにHDDプレーヤー保有者に限ると、蓄積している人の割合は60.4%に達し、蓄積曲数も平均485.6曲に増える。

なお、同じくHDDプレーヤー保有者におけるCDの月間平均購入枚数は1.6枚、レンタル枚数は1.8枚で、平均保有枚数は市販CDが214.11枚、MDが26.8枚、CD-Rが25.0枚だった。

また、購入したCDのリッピング率は72.3%で、累積リッピング枚数は平均135.0枚だった。一方、レンタルしたCDについてはリッピング率が55.3%、累積リッピング枚数が平均60.5枚となっており、購入したCDよりも低い数値を示している。

さらに、HDDプレーヤー保有者のうち合計42.1%の人が、CDやMDを直接再生するよりもHDDやフラッシュメモリに保存された音楽ファイルを聴くことのほうが多いと回答している。

野村総合研究所では、デジタル機器によるコンテンツの大量蓄積と家庭内LANの普及が進むと、デジタルコンテンツは、家庭内ではその由来に関係なく等価にハードディスクに蓄積されるようになるとしており、コンテンツ流通産業の業態変化につながる可能性があると予測している。

(6/2)

松下、物理速度250Mbpsのc.LINKケーブルモデムを開発

松下電器産業 パナソニック システムソリューションズは、c.LINK技術を採用した物理速度250Mbpsのケーブルモデムを世界で初めて開発したと発表した。

c.LINKは、既存の同軸ケーブルを使って高速なインターネット通信が可能な米Entropic Communicationsの技術。

今回開発したケーブルモデムはEntropic Communicationsとの共同開発で、ホームネットワーク用のアライアンス「MoCA (Multimedia Over Coax Alliance)」による標準化も進められているという。

c.LINKモデムでは、ケーブル局から集合住宅までを光ファイバで接続し、集合住宅内では既存の同軸ケーブルにc.LINKモデムを接続する。同軸ケーブルを利用することで新たな設備を構築することなく、従来まで集合住宅内で多く利用されていたVDSLよりも高速な通信が可能になるとしている。

c.LINKモデムは、宅内設置用の製品のほか、事業者の局側に設置する管理システムも用意。管理システムでは海賊版モデムの排除機能や不正アクセス追跡のログ蓄積といったサポート機能が搭載されているという。

(6/1)

NTT 東日本、B フレッツ加入者数が100万件を突破

NTT 東日本は、B フレッツの契約者数が2005年5月末で100万を突破したと発表した。

NTT 東日本エリアにおけるB フレッツのサービス開始は2000年12月の「光・IP通信サービス(仮称)の試験サービス」を経て2001年8月から。

契約者数は、2004年9月が63.2万件、2005年3月が88.5万件と25.3万件の伸びで、2005年5月末には2カ月間で12.8万件増の101.3万件を達成、100万件を突破した。

(6/1)

ウェブマネー、デジタルコンテンツの利用動向調査を発表

電子マネー「WebMoney」を運営するウェブマネーは、自社のユーザーデータに基づいたデジタルコンテンツ利用実態調査の結果を発表した。

調査を行なった期間は、2004年10月から2005年3月までの利用者データで、対象のユーザー数は14,032人。性別で見ると男性は10,647人、女性は3,385人で、全体の75.9%を男性が占めている。

世代別のデジタルコンテンツユーザーは、20代前半から30代前半が全体の約60%を占める。男女比を年齢別に見ると、16歳の男女比は男性が87.9%であるのに対して、39歳では男性が68%と女性の比率が増加、年齢が高くなるにつれて女性の割合が高まる傾向にある。

職種では「会社員」の37.6%、「学生」の19.7%が全体の50%以上を占めるメインユーザーとなっている。

デジタルコンテンツのジャンルは、「オンラインゲーム」「電子書籍」「ストリーミング」「音楽配信」に分類して調査。

音楽配信は30代後半から40代の利用率が高いが、他のジャンルと比較して利用する世代が幅広い傾向にある。1カ月あたりの音楽配信の利用単価は男性が274円、女性が361円と女性が高いが、利用回数は男性が2.7回、女性が2.4回とわずかに男性が高い。

また、年齢別では35~39歳の利用単価が475円と最も高いが、利用回数では30~34歳が3.1回と唯一3回以上の平均利用となっている。

(6/1)

アイリバー、フラッシュメモリ搭載の「H10 Jr.」を発表

アイリバー・ジャパンは、ポータブルオーディオプレーヤー「H10」シリーズの新機種として、フラッシュメモリ搭載の「H10 Jr.」を2005年6月下旬に発売すると発表した。

H10はHDDを内蔵していたが、H10 Jr.ではフラッシュメモリを採用することで、H10から小型軽量化した。メモリ容量は1GBと512MBの2モデル。

対応する音声圧縮形式はWMA/MP3/OGG/ASF。対応ビットレートはMP3/WMAともに8~320kbps。WMAのDRMや、ID3タグ表示もサポートする。

液晶部分には26万色もの描画が可能な1.2インチLTPS LCDを採用。テキストファイルやJPEG静止画表示にも対応。音楽を聴きながら画像やテキストを閲覧することが可能。

縦長のタッチパネルを採用し、項目や楽曲のスクロールが手軽に行なえる。

さらに、FM チューナとマイクも内蔵。ラジオの録音やボイスレコーディングも行なえる。音質面では、iCコライザを搭載。10 種類のプリセットに加え、カスタム設定も利用可能。SRS WOW も備えている。

PC とのインターフェースは USB 2.0。音楽ファイル管理・転送ソフトの「iriver plus 2」を同梱しており、自動同期機能を備えるほか、Gracenote の開発した MusicID 機能を搭載。

Music ID 機能はアナログ音源からデジタル録音したデータを解析し、自動的に曲名を取得できる技術で、サウンドデータのパターンを解析し、サーバ上の情報と照合し、オーディオデータにタグ情報を埋め込むことができる。

なお、USB ストレージクラスにも対応しており、ドラッグアンドドロップでも音楽データの転送が可能。ただし、DRM が施された WMA ファイルは iriver plus 2 で転送する必要がある。

iriver plus 2 の対応 OS は Windows 2000/XP。

電源は内蔵のリチウムポリマー充電電池を使用。連続再生時間は最長約 40 時間。なお、8 月にはオプションでクレードルも発売予定。

外形寸法は 42.5 × 16 × 71.8mm (幅 × 奥行き × 高さ)、重量は約 50g。カラーリングはネオシルバー、ディープレッド、ミッドナイトブルー、スレートグレーの 4 色。価格はオープン。

(6/1)

ケンウッド、MP3/WMA プレーヤーに 1GB モデルを追加

ケンウッドは、フラッシュメモリ内蔵型 MP3/WMA プレーヤーの 1GB モデル「M1GA3」を 2005 年 6 月中旬に発売すると発表した。

同社が 2005 年 2 月に発売した「M512A3 (512MB モデル)」「M256A3 (256MB モデル)」に 1GB モデルを追加することで、3 モデルのラインナップとなる。フラッシュメモリの容量以外の仕様は共通。

カラーリングはホワイト(-W)、ブラック(-B)、ブルー(-L)の 3 色。価格はオープン。

(5/30)

デジオン、DLNA 対応機器用の開発キットを発表

デジオンは、マルチメディア・ホームネットワークを構成する家電製品を低コストかつ短期間に開発するための新製品「DiXiM HAK (Hardware Adaptation Kit)」を開発し、2005 年 6 月から、さまざまなプラットフォームに向けて順次、提供を開始すると発表した。

製品ラインナップはメディアサーバ機器 (DMS: Digital Media Server) 開発向けの「DiXiM DMS HAK」と、プレーヤー機器 (DMP: Digital Media Player) 開発向けの「DiXiM DMP HAK」。

メディアサーバ機器開発用の「DiXiM DMS HAK」は、Freescale Semiconductor MPC8248、Renesas SH4、Toshiba TX4938、VIA Eden など各社の主要かつ有力なハードディスク搭載型リファレンスボードと、これらのボード上で動作するデジオンの DMS アプリケーション「DiXiM Storage Server」で構成される。

プレーヤー機器開発用の「DiXiM DMP HAK」は、Sigma Designs 社の EM8620L を搭載したリファレンスボード「Envision 8620L」と、デジオンの DMP アプリケーション「DiXiM DMA 2.0」、ハードウェア構成やアプリケーションの UI デザインなどをカスタマイズするためのドキュメンテーションで構成される。

「EM8620L」は、DMP で使用されている最もポピュラーなメディア・プロセッサで、低コスト・高品質な DMP プラットフォームとして最適としている。

これら「DiXiM HAK」を構成するデジオンの DMS アプリケーション「DiXiM Storage Server」と DMP アプリケーション「DiXiM DMA 2.0」は、ともに「DLNA ガイドライン」対応済み。

「DiXiM HAK」は、DMS 機器や DMP 機器を開発する家電メーカー自身で製品化できるよう、UI デザインやハードウェア構成の変更にも対応可能としている。

家電メーカーは、「DiXiM HAK」を使うことで、コスト面以外にも、デジオンの開発スケジュールに依存することなく、自社の製品計画に従ったホームネットワーク製品を迅速に開発できるとしている。

また、従来から提供されていた SDK も、新たに「DiXiM SDK」(DiXiM Home Network Framework SDK)として提供し、「DiXiM HAK」対応プラットフォーム

の他、複数のプラットフォームに対応、ホームネットワーク機能を持ったアプリケーションを開発できる。

(5/30)

クリエイティブ、HDD プレーヤー「Zen 20GB」のホワイトモデルを発表

クリエイティブメディアは、20GB の HDD を搭載したポータブルオーディオプレーヤー「Creative Zen 20GB」のホワイトモデル (CZ20G-WT) を 2005 年 6 月 1 日より発売すると発表した。

2005 年 3 月の発表時には、ホワイトモデルの発売時期を未定としていたが、今回発売日が正式決定した。

「Zen 20GB」は 5GB の HDD を搭載した「Zen Micro」と同じデザインやスタイル、機能を搭載しながら、20GB の HDD を搭載したオーディオプレーヤー。

対応する音声圧縮形式は WMA/MP3/WAV。対応ビットレートは、WMA/MP3 とともに 8~320kbps。WMA の DRM もサポートする。

1.65 型/160 × 104 ドットの液晶ディスプレイを装備。FM チューナを内蔵し、FM 録音に対応。内蔵マイクによるボイスレコーディングも可能となっている。

外形寸法と重量は約 62 × 19.5 × 95mm (幅 × 奥行き × 高さ)、約 140.5g。価格はオープン。

(5/26)

MM 総研調査、ブロードバンド加入者数は 1,930 万件

MM 総研は、2005 年 3 月末時点のブロードバンド回線事業者における加入者数の調査結果を公表した。同調査によると、ADSL/FTTH/CATV インターネットを合わせたブロードバンドサービスの加入者総数は 1,930 万件。

ADSL では、ソフトバンク BB (サービス名: Yahoo!BB) が、34.9% で単独ブランドとしてはトップシェアを維持したものの、月間の純増ペースは 04 年度上期 (04 年 3 月~04 年 9 月) と比べてほぼ半減。NTT 東西のサービスを合わせたシェア (38.0%) との差は拡大している。

FTTH では、NTT 東西が提供する B フレッツが合計 62.6% と過半数のシェアを獲得しているものの、ケ

イ・オブティコムや東京電力、KDDI などが加入件数を増やしており、新規参入したソフトバンク BB も加わり、加入者獲得競争はさらに激しくなっている。

同社では、ADSL、CATV インターネット、FTTH の3つのサービスを合わせたブロードバンドサービス加入件数は05年3月末時点で1,900万件を突破。05年度末(06年3月末)には2,360万件に達し、さらに06年度末(07年3月末)には2,800万件にまで増加する見込みとしている。

(5/26)

WMP 10、DRM で保護された音楽コンテンツの制限に関わる現象

マイクロソフトは、Windows Media Player 10 (WMP 10)で、DRM によって保護された音楽コンテンツを音楽 CD へ書き込む場合、ライセンスの制限回数以上に書き込みができるケースがあることを技術情報「900686」として公開した。

WMP 10では、プレイリスト内の音楽コンテンツに関して、同一の音楽 CD に対して同一の音楽コンテンツを複数回書き込む場合、ライセンスに指定されている「PlaylistBurnTrackCount」(PBTC)が1以上残っているかを確認する。

書き込む時点では、PBTC を参照するだけに止まり、実際に値は減少しない。PBTC が減少するのは、音楽 CD への書き込みが完了した時点となる。

今回の現象は、PBTC の値が1以上残っていれば、同一の音楽コンテンツを同一の音楽 CD に対して2回以上書き込めるというものである。

技術情報によると、WMP 10では現時点でこの現象を回避する方法はなく、この現象は異なる複数の音楽 CD に対して、PBTC の値以上の書き込みを許すものではないとしている。

(5/26)

オリコン、音楽配信サービスにATRAC3plusを導入

オリコンは、同社の音楽配信サイト「ORICON STYLE」で配信する楽曲について、従来の WMA フォーマットに加えてATRAC3plusも新たに採用することを発表した。

従来、ORICON STYLE では WMA 形式でのみ楽

曲を入力できたが、今回の導入により、ダウンロードの際に WMA/ATRAC3plus のいずれかをユーザーが選択できるようになる。

2005年9月をめどに、現在配信されているすべての楽曲をATRAC3plusにも対応させる予定。

導入の背景として、ソニーの発売するネットワークウォークマン・シリーズに新機種が投入され、ATRAC3plus 形式対応のプレーヤーを利用してユーザーが急速に拡大していることを挙げている。

(5/26)

TI、ポータブルオーディオ用 DSP のリファレンスデザインを発表

日本テキサスインスツルメンツ(日本 TI)は、ポータブルオーディオプレーヤー用 DSP「TMS320DA295」のリファレンスデザインを発表した。

TMS320DA295 はヘッドフォン・アンプやステレオ DAC などを高集積したデュアルコアの DSP。

電力やクロックスピードを柔軟に変えられるため、高効率と低消費電力を両立でき、リチウムイオン電池(3.7V/800mAh)内蔵プレーヤーの場合、1回の充電で約45時間の連続再生が行なえるとしている。

MP3/AAC/WMA などのオーディオエンコード/デコードに対応し、DRM 技術にも対応可能。

データの相互接続には USB 2.0 high speed On-The-Go を使用し、ポータブルオーディオとデジタルカメラなどの他の機器とのピア・ツー・ピア接続を可能にする。

また、リファレンスデザインには専用組み込み型 HDD 用途の HDD コントローラ、カラー LCD や NTSC のインターフェース、FM チューナー、ヘッドフォン・アンプ、ステレオ DAC が含まれ、フラッシュ型ストレージもサポートする。

『DA295』リファレンスデザインのベータ版は、2005年第2四半期中に入手可能となる予定。

(5/26)

ジャストシステム、BeatJam の対応機器追加する強化キットを公開

ジャストシステムは、オーディオジョークボックスソフト「BeatJam」用の「BeatJam デジタルオーディオプレーヤー対応強化キット Vol.3」を公開した。

今回の対応強化キットは、ソニーから発売されている最新型の Hi-MD ウォークマン「MZ-DH10P」「MZ-RH10」や、パソコン上の静止画や動画などのデータを「Hi-MD」や MD に記録でき、持ち歩いて使えるポータブル Hi-MD ドライブ「DS-HMD1」、デスクトップオーディオシステム「Sound Gate」などに、BeatJam から楽曲を転送することができるようになるもの。

また、BeatJam で管理している MP3 ファイルをATRAC3/ATRAC3 plusへ変換せずにセキュア化して、MP3 対応 Hi-MD 機器に転送できるようになっている。

さらに、Internet Explorer 上で試聴・購入を実行した際に、BeatJam を自動的に起動してミュージックストア上で試聴・購入できる機能も追加された。

なお、2005年4月に公開したPSP対応の「強化キット Vol.2」の更新内容も含まれている。

(5/26)

Wireless USB 規格が決定

Wireless USB Promoter Group は、無線による USB 接続規格「Wireless USB」の規格が決定したと発表した。

Wireless USB は、ワイヤレスで PC や周辺機器を接続しデータ転送が可能な USB の上位互換規格。

基本構成は、無線部分(物理層)と USB 部分(論理層)を利用しており、無線部には広帯域の周波数帯を複数のバンドに分割し、それらを束ねて転送速度を高めた「UWB(Ultra Wide Band)」を採用している。

データ転送速度は現行の USB 2.0 と同等で、3m の距離で 480Mbps、10m で 110Mbps を実現する。

Wireless USB Promoter Group では、2005 年末に採用製品が登場する見込みとしている。

(5/25)

IBM など、相変化メモリ技術の共同研究活動を開始

米 IBM、独 Infineon Technologies および台湾 Macronix International は、相変化メモリ(Phase Change Memory、PCM)技術の共同研究活動を開始すると発表した。

相変化メモリは、データを電荷としてではなく、特殊な材料の非晶質から結晶構造への状態変化によって保存する新技術。電源を切ってもデータは保持され、研究の初期段階においてこの技術は、高速・大容量のデータを保存する潜在性を示しているとしている。

そのため、同技術はサーバからコンシューマ向けデバイスまで広範なアプリケーションで有用と期待されている。

3社では、IBMの基礎材料および物理研究に関する強み、Infineonのメモリ技術および製品タイプの研究開発と量産の能力、Macronixの不揮発性メモリ技術の統合が研究活動に生かせるとしている。

(5/24)

フリーペーパーと連動した音楽配信サービス紹介サイト「ramblin'」

ブーム・メディア・コミュニケーションズは、各社が提供する音楽ダウンロードサービスを取り上げるWebサイト「ramblin'(ランプリン)」を2005年6月25日に開設すると発表した。

ramblin'では、PC向けの音楽配信サービスや携帯電話向けの着うたサービスを、Webサイトとフリーペーパーを通じて紹介する。

Webサイトでは、アーティストインタビューなどを音声データとして配信するブロードバンドコンテンツの提供を予定し、各音楽配信サービスへのリンクも用意される。

ramblin'のフリーペーパー版は、東京都内や名古屋、関西にあるCDストアや喫茶店、クラブなど600カ所、合計10万部が配布される予定。

Webサイトとフリーペーパーの誌面は連動しており、どちらも各社が運営する音楽配信サービスで配信されるアーティストのレア音源や未発表音源、インタビューアーティストの音源などが毎号取り上げられる。

また、将来的にはramblin'から各社サービスへ楽曲提供も検討するという。このほか、音楽配信サービスの利用法や、音楽配信サービスに対応したオーディオプレーヤーなども紹介される。

(5/23)

イー・アクセス、IEEE 802.16e 準拠のWiMAX 方式を総務省に提案

イー・アクセスは、現在参入を希望している第3世代携帯電話技術のW-CDMA(HSDPA)を補完するシステムとして、モバイルWiMAXの利用を総務省へ提案したと発表した。

イー・アクセスが提案した規格は、IEEEで標準化作業が進められている「IEEE 802.16e」に準拠したWiMAXの規格。

WiMAXではこれまで見通し内の通信で最大135Mbpsの通信が可能な「IEEE 802.16」、見通し外でも通信できる「IEEE 802.16-2004」が標準化されている。

「IEEE 802.16e」はモバイル機能が高められており、最大75Mbpsで時速120km以上のハンドオフが実現可能。エリアは2~3km以内で、IEEEでは2005年9月を目標に標準化を進めている。

イー・アクセスではこのIEEE 802.16e 準拠のWiMAXに関して、実用化すればWi-Fi準拠の無線LANを代替するシステムにも成り得ると判断。総務省が主催するワイヤレスブロードバンド推進研究会の提案募集に対して、IEEE 802.16e 準拠のモバイルWiMAX導入を提案した。

イー・アクセスはモバイルWiMAXの技術導入時期を2009年、市場全体では6GHz以下の周波数帯で約450MHzの帯域を試算。試算した範囲内での周波数割当を希望する予定としている。

(5/23)

au、楽曲検索サービス「聴かせて検索」を発表

au KDDI、沖縄セルラーは、au携帯電話の新サービスとして、街中で聞こえる音楽やテレビ番組のBGMなどから、簡単に曲名を割り出し、EZ「着うたフル」などのダウンロードや、CD購入ができる「聴かせて検索」を発表した。

同サービスはグレースノートの楽曲認識技術を利用しており、楽曲認識率は約99%。検索の際には、回線交換によりサーバに接続して楽曲を聴かせる。

街中やテレビなどで流れている曲(CDとして発売されている曲など)が主な対象となり、鼻歌や生演奏などは検索できない。

対応端末は「W32SA」「W31T」「A5511T」。対応端末の発売と同時にサービスが開始され、利用料は月額210円。

(5/23)

Philips、HDD オーディオ用低消費電力の半導体ソリューションを発表

フィリップス エレクトロニクス ジャパンは、HDDポータブルオーディオ向けの低消費電力半導体ソリューション「PNX0106」を発表した。

PNX0106は、画像再生を備えた高性能かつ低消費電力のポータブルオーディオ機器の製造に必要な多様な機能を1つに統合した半導体ソリューション。

パッケージサイズは12×12×1mm(縦×横×厚さ)。132MHzの「ARM926EJ-S」と24bitのオーディオ用DSP、ADC/DACなどを集積している。

インターフェースとしてIDEをサポートし、HDDを接続可能。さらにCFカードをサポートするほか、SD/MMCカードやNAND、NOR、SRAM/SDRAMも接続可能。様々なメディアに保存した音楽・映像ファイルが再生できる。

さらに、拡張用端子も備えており、Wi-Fi、Bluetooth、FMラジオなども追加できる。

音楽再生時の消費電力は60mWで、800mAhのバッテリーを搭載した際の連続再生時間は45時間。

PCとの接続用にはUSB 2.0(15Mbps)を搭載。ホスト機能もサポートしており、デジタルカメラなどからPCを使わずに静止画を転送してHDDにコピー可能。静止画表示も行なえるほか、簡易動画の再生もサポートしている。

OSはLinuxを採用。具体的な対応フォーマットは、音声 がMP3/WMA/AAC/AAC+/AAC+Enhanced/OGG。さらにADPCM/MP3形式

での録音も可能。audible.com のオーディオブックフォーマットもサポートする。

静止画は JPEG をサポート。動画は Motion JPEG と、176×144 ドット/15fps の MPEG-4、WMV の再生が可能。LCD 出力用デバイスを 2 系統備えており、一方をモノクロ用として曲名やシステム表示に利用し、一方をカラーにして動画表示やジャケット表示に利用するといった使い方もできる。

ほかにも、外部ビデオエンコーダを接続すれば、テレビなどへの出力にも対応可能。また、JAVA プログラムのロードも可能で、携帯電話用に作成されたゲームを遊ぶこともできるとしている。

サンプルリファレンスボードの出荷は 7 月、量産出荷は 10 月を予定している。

(5/23)

任天堂、次世代ゲーム機「Revolution」を発表

任天堂は、次世代ゲームプラットフォーム「Revolution(コードネーム)」を 2006 年に発売すると発表した。

IBM と共同開発したプロセッサ「Broadway」と、ATI 製のグラフィックチップ「Hollywood」を内蔵し、グラフィック性能を大幅に向上している。

512MB のフラッシュメモリを備えるほか、SD メモリーカードスロットも装備。内蔵フラッシュメモリを拡張することが可能となっている。

DVD トールケース 3 枚分という小型の筐体の特徴で、縦置き/横置きのいずれでも利用できる。

メディアは 12cm 径の光ディスクで、スロットローディング式のドライブを搭載。ゲームキューブ用 8cm メディアのゲームソフトもプレイできる。

また、本体に収納できる小型アタッチメントを用いることで DVD ビデオの再生も可能となる。

無線 LAN 機能も内蔵し、初代ファミリーコンピュータをはじめとした、過去 20 年に及ぶ任天堂ゲームプラットフォーム向けのゲームタイトルをダウンロードしてプレイすることもできる。

2 系統の USB 2.0 ポートや、ワイヤレスコントローラ

も備えている。

(5/18)

SCEI、「プレイステーション 3」を発表

ソニー・コンピュータエンタテインメント(SCEI)は、次世代ゲームプラットフォーム「プレイステーション 3」を 2006 年春に発売すると発表した。

ゲームプラットフォームとしては、従来のプレイステーション/プレイステーション 2 との互換性を確保しながら、東芝/IBM と共同開発したプロセッサ「Cell」の搭載や、NVIDIA と共同開発したグラフィックプロセッサ「RSX」、Rambus が開発した XDR メモリなどの採用により、2 TFLOPS 級の演算能力を実現している。Cell の動作周波数は、3.2GHz で L2 キャッシュは 512KB。

ソフトウェアの供給媒体として BD-ROM を採用。内蔵ドライブはブルーレイドライブで、BD-Video の BD-ROM/RE/R 読み出しに対応。BD-R/RE などの記録には対応していないが、CD/DVD の読み込みやプレイステーション/プレイステーション 2 のゲームタイトルの再生に対応。さらに SACD 再生もサポートしている。

GPU の RSX は、1.8 TFLOPS の浮動小数点演算性能を備えており、2 系統の HDMI 出力から 1080i/720p に加え、1080p での映像出力が可能となっている。

HDD は着脱式で、2.5 インチ HDD 用スロットを装備。容量は未定。USB 端子×6 やメモリースティックスロット、CF スロット、SD メモリーカードスロットも装備している。

また、Gigabit Ethernet(1000BASE-T)も 3 系統(インポート×1、アウトポート×2)や IEEE 802.11b/g 無線 LAN を装備。無線 LAN 経由で PSP との連携も可能となる。

Bluetooth 2.0(EDR)も内蔵し、ゲームコントローラは Bluetooth で接続。最大 7 台までの同時接続が行なえる。AV 出力は HDMI×2 のほか、AV マルチ出力、光デジタル音声出力を装備する。

(5/17)

東芝、「gigabeat F」に 40GB 垂直記録 HDD 搭載モデルなどを追加

東芝は、1.8 型 HDD 内蔵縦型オーディオプレーヤー「gigabeat F」シリーズのラインナップを一新し、垂直磁気記録方式 HDD を採用した「F41」、従来モデルから機能を向上させた「F21」、「F11」の計 3 機種、カラーバリエーションにより 6 モデルを 2005 年 5 月 20 日より発売すると発表した。

gigabeat F41 は、同社が 2004 年 12 月に発表した垂直磁気記録方式を採用した厚さ 5mm/容量 40GB の 1.8 型 HDD を搭載したオーディオプレーヤー。

2005 年 3 月に発売された従来モデル「F40」より、厚みが 3mm 薄くなり、重量を 10g 軽量化している。本体カラーはシャンパンシルバー。

対応する音声圧縮方式は WMA/MP3/WAV で、Windows Media DRM もサポートする。

2.2 型 240×320 ドットのカラー液晶ディスプレイを備えるほか、十字型のインターフェース「プラスタッチ」を採用。電源は内蔵のリチウムイオン充電電池を使用し、連続再生時間は約 16 時間。

付属の「gigabeat room」により、Windows Media Player 内のジャケット画像を参照し、gigabeat room で楽曲を転送した際、ジャケット画像も自動的に本体に転送することができる。

さらに、Gracenote の MusicID に対応。アナログ音源から取り込んだ楽曲にも自動的に曲名やアーティスト名が追加されるほか、タグ情報の編集も行なえる。

また、楽曲の曲調やジャンルに関するキーワードを選択することで、自動的にプレイリストが作成される Gracenote PLAYLIST もサポート。

さらに、USB 接続した本体内の SAT ファイル(HDD 内の音声フォーマット)を、著作権を保護したまま gigabeat room から再生することができる。

USB ホスト機能にも対応し、オプションの USB クレードル「MEGBCS13」に載せ、AC アダプタを繋いだ状態で、USB 接続したメディア内の DCF フォーマットの画像ファイルを本体に転送できる。

gigabeat F21/F11 は、2004 年 11 月に発売された「F10」、「F20」の後継モデル。

機能としては「F40/F41」と同等に、「フォトビューアモード」、「画面スタイル設定」を搭載し、画面表示機能を強化している。

本体カラーは、「F11」がホワイト/ライム/オレンジ、「F21」がシルバー/ブラック。

全機種とも対応 OS は Windows 2000/XP で、価格はオープン。

(5/16)

米 Microsoft、次世代ゲーム機「Xbox 360」を発表

米 Microsoft は、次世代ゲーム機「Xbox 360」を発表した。

Xbox 360 は、ホワイトを基調とした筐体を採用しており、デザインには日本のデザイナーも参加。フロントパネルはカスタマイズが可能な「スタイルフェイス」仕様となっている。

光学ドライブとして 12 倍速の DVD-ROM ドライブを搭載しており、DVD ビデオ、DVD±R/RW、音楽 CD、CD-R/RW に収録した WMA、MP3、JPEG ファイルの再生もサポートする。

ゲームソフトは 16:9、720p/1080i の出力をサポート。DVD ビデオのプログレッシブ出力もサポートするほか、ビデオ映像の SD/HD 出力もサポートする。

また、USB 2.0 端子を経由し、MP3 プレーヤーやデジタルカメラ、Windows XP ベースの PC と接続が可能。これらのハードウェア内部の音楽や画像なども Xbox 360 で再生できる。なお、USB ポートは 3 基備えている。

さらに、20GB の HDD を搭載。HDD は着脱可能となっており、アップグレードにも対応。HDD に音楽 CD などから楽曲をリッピング・保存する機能も備えている。

なお、インターネットを経由したオンラインゲーム機能「Xbox Live」機能も備えており、様々なコンテンツのダウンロードサービスが受けられるほか、映画や音楽を再生している中でも、オンラインでほかのプレーヤーとボイスチャットが可能。

コントローラはワイヤレス式で、4 台まで同時に利用可能。無線 LAN 機能も 802.11a/b/g をサポートする。

有線の Ethernet 端子も備えており、Windows XP Media Center Edition 2005 をインストールした PC と連携し、音声/映像コンテンツなどをネットワーク経由でテレビなどに出力できる Media Center Extender 機能も内蔵している。

日本国内では 2005 年末に発売する予定で、価格は未定。なお、日本での呼び名は「エクスポックス サンロケマル」。

(5/13)

ソニー、PC と USB 接続可能な HDD ナビ「XYZ」の新モデルを発表

ソニーは、PC と USB 2.0 で接続できる 30GB HDD 搭載 AV ナビシステム「XYZ(ジーゼット)777 シリーズ」2 モデルを発表した。

NV-XYZ777 / NV-XYZ777EX は、30GB HDD を搭載し PC と接続して、地図や音楽・映像を好みの内容でカスタマイズできる HDD AV ナビシステム。

単体の「NV-XYZ777」を 2005 年 6 月 10 日に 220,500 円で、ピーコンユニットなどが付属した「NV-XYZ777EX」を 2005 年 7 月 7 日に 252,000 円で発売する。

6.5V 型 WVGA モニター(1,152,000 画素)と、ナビ本体で構成。インテリアとのフィット感にこだわったという「フレームデザイン」を採用するなど、従来の XYZ シリーズからデザインが一変された。

HDD コアユニット部は、ワンタッチで取り外すことができ、USB 2.0 経由でパソコンと接続可能となっている。

映像データ(MPEG-1/2/4)、音声データ(ATRAC3/ATRAC3plus/MP3)、静止画データ(JPEG/BMP/TIFF/PNG/GIF)を転送でき、車内でナビ機能だけでなく、動画や音声データも再生できる。

カーユニット部は、外形寸法約 186 × 169 × 50mm(幅 × 奥行き × 高さ)、重量約 1,135g。入力端子は、カメラ映像 × 1、コンボジット × 1、アナログ音声 × 1 系統。出力端子は映像音声 × 1 系統(AV ミニジャック)、音声 × 1 系統。GPS アンテナの外形寸法は、約 33 × 36 × 13mm(幅 × 奥行き × 高さ)。

コアユニット部は、外形寸法約 162 × 134.1 ×

25.1mm(幅 × 奥行き × 高さ)、重量約 460g。モニター部の外形寸法は、約 194.5 × 27.5 × 108.0mm(幅 × 奥行き × 高さ)、重量約 435g。モノラルスピーカーを内蔵する。

なお、30GB HDD 内蔵 2DIN 一体型 AV ナビシステム「Z555」1 モデルも同時に発表している。

(5/13)

EMD Magazine 第 44 号

発行 2005 年 10 月 2 日

発行所 音楽配信関連情報サービス

責任編集 宮腰 温

レイアウト 株式会社アイビルダーズ